

2026年12月期 第2四半期 決算説明会



2026年8月20日
井関農機株式会社

1. 2026年12月期 第2四半期業績の概要
2. 2026年12月期 業績予想
3. 国内外市場動向
4. プロジェクトZ進捗・TOPICS
5. APPENDIX

2026年12月期 第2四半期業績 [前年同期比]

P L : 増収、営業・経常増益

営業利益率 5.5% [+1.2%]

B S : 債権回収も進み、有利子負債は削減

プロジェクトZ生産最適化投資等に伴い総資産増 (投資は計画通り)

- ・ プロジェクトZ (抜本的構造改革及び国内外成長戦略)の施策実行により、収益性の改善が確実に進展した
- ・ 2027年目標(営業利益率5%以上)達成は十分に射程圏内

1. 2026年12月期 第2四半期業績の概要

2. 2026年12月期 業績予想

3. 国内外市場動向

4. プロジェクトZ進捗・TOPICS

5. APPENDIX

連結業績の概要 増収、営業・経常増益



(単位：億円、%) (2026年1月1日～ 2026年6月30日)	2024/12期 2Q実績	2025/12期 2Q実績	2026/12期 2Q実績	前年同期比	
				増減	増減率
売上高	911	1,008	1,019	+10	+1.0%
(国内)	548	658	639	△19	△2.9%
(海外)	362	350	380	+29	+8.5%
売上総利益	269	293	321	+27	+9.3%
売上総利益率	29.5%	29.1%	31.5%	+2.4%	-
営業利益	22	43	55	+12	+28.0%
営業利益率	2.4%	4.3%	5.5%	+1.2%	-
経常利益	24	37	52	+14	+37.1%
親会社株主に帰属する 中間純利益	△6	32	31	△1	△5.1%

為替平均 レート(円)	ドル	151.7	149.7	157.7	+8.0	-
	ユーロ	172.1	162.5	184.7	+22.2	-

主な増減要因（前年同期比）

- 国内売上高：受注好調も一部生産が追い付かず減収
作業機・メンテナンス収入は続伸
- 海外売上高：成長戦略の軸である“欧州”で売上拡大
- 営業利益：プロジェクトZと価格改定の効果で
利益率改善
- 経常利益：為替差損益の好転により増益幅を拡大
- 中間純利益：固定資産売却益の剥落も、
利益率改善等で前年同期並み

中間純利益の主な増減要因（プラスは収益好転）

営業利益の増	+ 12億円
為替差益の好転	+ 2億円
固定資産売却益の剥落	△ 10億円

国内売上高 受注好調も一部生産が追い付かず



(単位：億円、%) (2026年1月1日～ 2026年6月30日)			2024/12期 2Q実績	2025/12期 2Q実績	2026/12期 2Q実績	前年同期比	
						増減	増減率
農機 関連	農機 製品	整 地 機	123	146	139	△7	△5.1%
		栽 培 機	44	56	52	△4	△8.4%
		収穫調製機	44	73	43	△30	△40.7%
		小 計	212	277	235	△42	△15.2%
	メン テナ ンス	部 品	76	83	90	+7	+8.9%
		修 理 収 入	29	30	33	+2	+9.6%
		小 計	105	114	124	+10	+9.1%
	作 業 機		112	141	148	+6	+4.8%
	計		429	533	508	△25	△4.7%
	施 設 工 事		13	23	18	△5	△21.8%
その他農業関連		105	101	112	+11	+11.0%	
合 計		548	658	639	△19	△2.9%	
メンテナンス収入比率			19.3%	17.3%	19.5%	+2.2%	-

主な増減要因（前年同期比）

- 農機製品：生産能力が一時的に低下
(生産拠点再編中のため)
- 作業機：稲作用作業機の伸長継続
- メンテナンス収入：安定収益源、順調に続伸
- その他農業関連：関連商品(刈払機等)、肥料等

➤（参考）当社農機製品価格改定

時期	改定率
2022年6月	約3%
2023年4月	約5%
2024年3月	約3%
2025年7月	約7%
2026年8月	約4.6%

海外売上高 海外成長戦略の軸である“欧州”で売上拡大



(単位：億円、%) (2026年1月1日～ 2026年6月30日)	2024/12期 2Q実績	2025/12期 2Q実績	2026/12期 2Q実績	前年同期比	
				増減	増減率
欧 州	262	251	292	+40	+16.1%
北 米	63	55	53	△2	△4.7%
ア ジ ア	31	40	31	△8	△21.8%
そ の 他	5	2	2	+0	+18.1%
合 計	362	350	380	+29	+8.5%

海外売上高 比率	39.8%	34.7%	37.3%	+2.6%	-
-------------	-------	-------	-------	-------	---

主な増減要因（前年同期比）

欧 州：現地通貨ベースで売上拡大
（電動草刈ロボット 等）

為替影響もあり増収

北 米：一部商品で供給遅れがあり減収も
OEM先からの受注は回復傾向

アジア：韓国向けのプロ用稲作機械が堅調
タイは景気低迷で販売伸び悩み
インドネシアの政府入札は継続

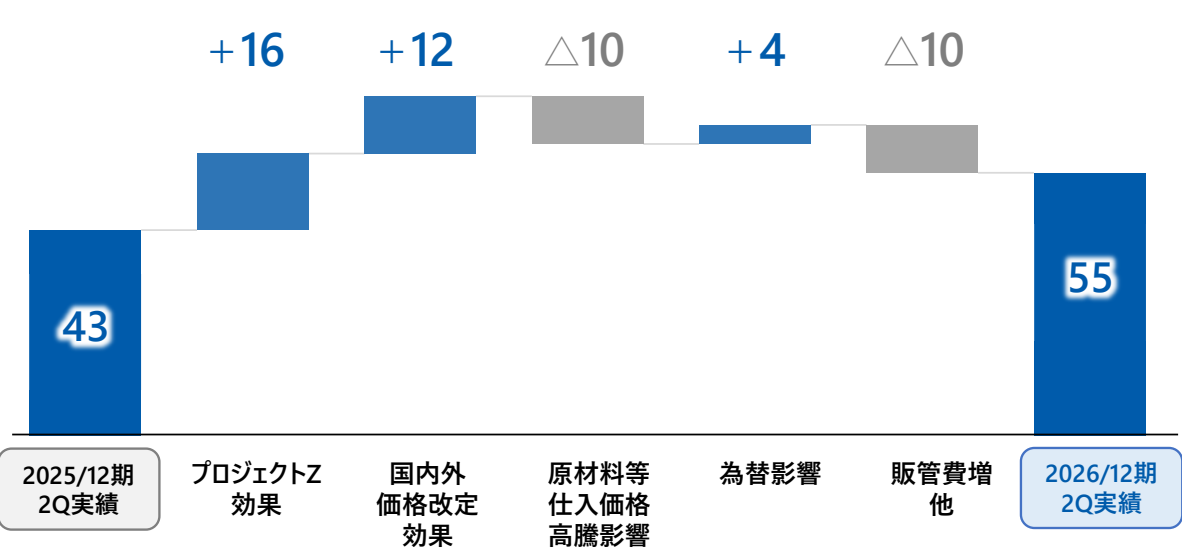
営業利益 プロジェクトZと価格改定の効果で利益率改善



営業利益率 5.5% [前年同期比 + 1.2%]

(単位：億円、%) (2026年1月1日～ 2026年6月30日)	2025/12期 2Q実績	2026/12期 2Q実績	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	1,008	1,019	+10	+1.0%
売上総利益	293	321	+27	+9.3%
売上総利益率	29.1%	31.5%	+2.4%	-
販管費	250	265	+15	+6.1%
人件費	141	148	+7	+5.0%
その他経費	108	116	+8	+7.5%
営業利益	43	55	+12	+28.0%
営業利益率	4.3%	5.5%	+1.2%	-

【営業利益増減内訳 [前年同期比：+12億円]】



【為替影響(億円)】

売上	原価	販管費	営業利益
+36	+25	+7	+4

【プロジェクトZ 効果(億円)】

(前年同期比)	通期 予想	2Q 実績
営業利益	+28	+16

* 詳細はP.23に記載

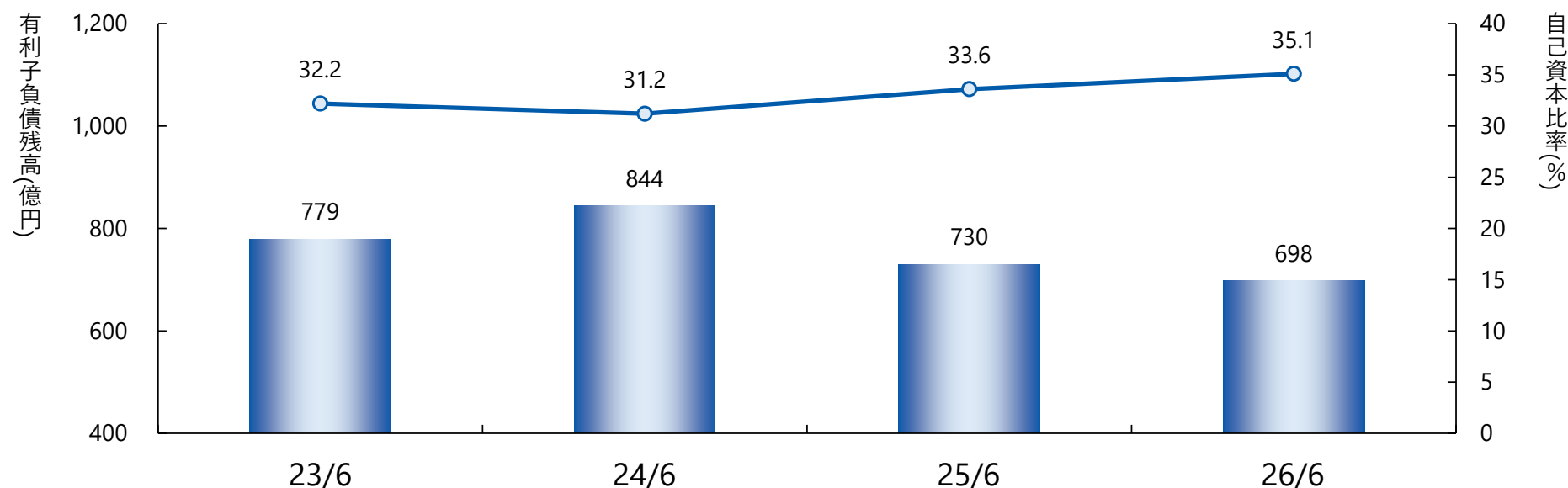
バランスシート 債権回収も進み、有利子負債は削減

プロジェクトZ生産最適化投資等に伴い総資産増(投資は計画通り)
棚卸資産は海外子会社の為替影響で微増

(単位：億円)	24/6月末	25/6月末	26/6月末	前年 同期比		24/6月末	25/6月末	26/6月末	前年 同期比
現 預 金	108	99	71	△28	仕 入 債 務	282	256	280	+23
売 上 債 権	378	408	355	△52	有 利 子 負 債	844	730	698	△32
棚 卸 資 産	709	567	576	+9	(借 入 金)	(768)	(660)	(624)	(△35)
その他流動資産	36	40	55	+14	未 払 金	119	125	141	+16
					そ の 他 負 債	244	248	283	+34
流 動 資 産 計	1,233	1,116	1,058	△57	負 債 計	1,490	1,362	1,403	+41
有 形 固 定 資 産	820	806	892	+85	純 資 産	751	753	835	+82
無 形 固 定 資 産	27	28	46	+17					
投資その他資産	160	163	241	+78	(利 益 剰 余 金)	(194)	(196)	(214)	(+17)
固 定 資 産 計	1,008	998	1,180	+181					
資 産 合 計	2,242	2,115	2,239	+123	負債・純資産 計	2,242	2,115	2,239	+123

自己資本比率・有利子負債 D/Eレシオは1倍を下回る水準

- 有利子負債の圧縮が進み、D/Eレシオは1倍を下回る水準で推移



借入金・社債	710	768	660	624
リース債務	69	75	70	73
有利子負債 計	779	844	730	698
D/Eレシオ	1.04倍	1.12倍	0.97倍	0.84倍

※D/Eレシオ=有利子負債/純資産 ※リース債務を含む

キャッシュ・フロー 通期 営業CFは黒字化を見込む

	23/12期 2Q実績	24/12期 2Q実績	25/12期 2Q実績	26/12期 2Q実績	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 75	△ 11	45	△26	△71
（税金等調整前中間純利益）	29	2	47	48	+1
（減価償却費）	28	27	25	26	+1
（減損損失）	0	22	0	2	+1
（売上債権の増減額（△は増加））	△ 102	△ 103	△ 163	△89	+73
（棚卸資産の増減額（△は増加））	△ 25	40	111	3	△108
（仕入債務の増減額（△は減少））	△ 32	△ 142	8	9	+0
（未払金の増減額（△は減少））	△1	114	22	10	△11
（その他）	28	28	△ 8	△37	△29
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 30	△ 31	△ 7	△88	△81
（有形及び無形固定資産の取得による支出）	△ 30	△ 31	△ 24	△88	△64
（有形及び無形固定資産の売却による収入）	1	3	17	2	△15
フリーキャッシュフロー	△ 106	△ 42	37	△115	△153
財務活動によるキャッシュ・フロー	80	49	△ 30	53	84
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 21	7	10	△59	△69

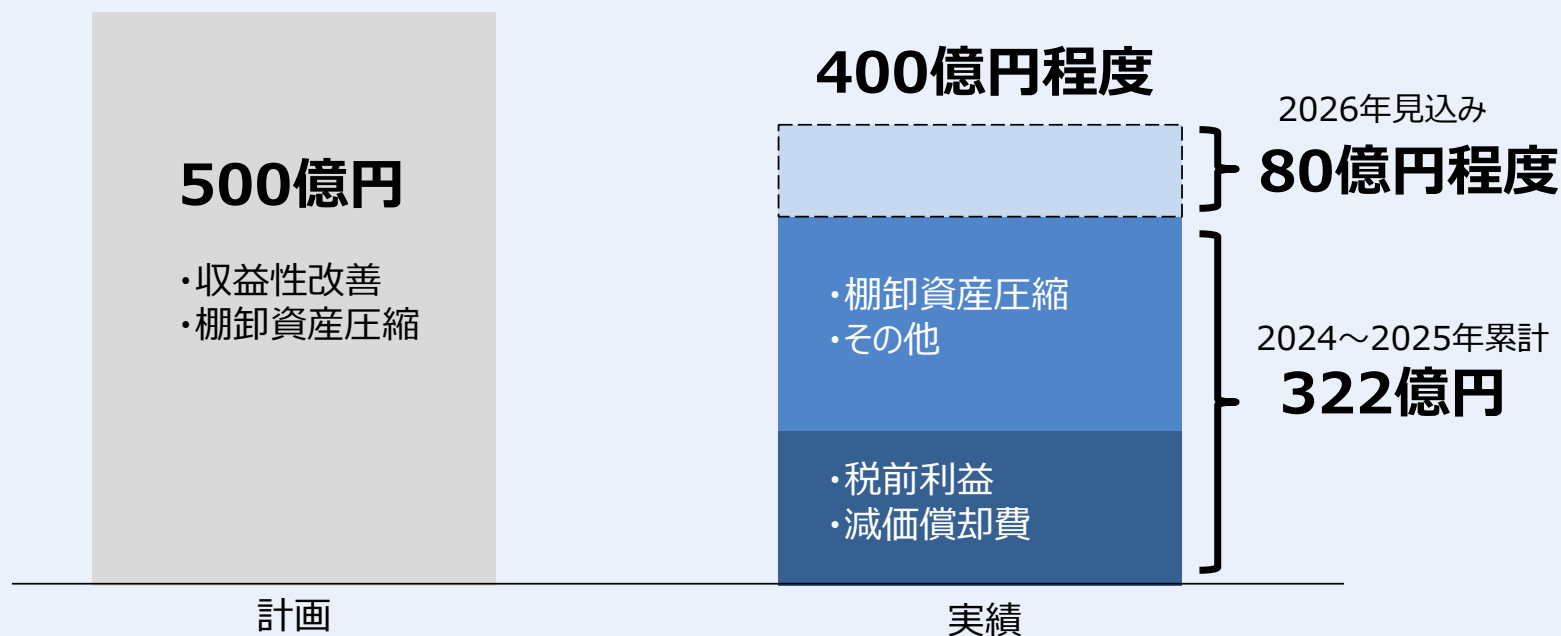
営業キャッシュ・フローの進捗

- ・2024～2025年で営業CFは大幅に改善。今期 + 80億円程度を見込む
- ・4年間累計500億円の計画に対して、3年間で400億円程度の営業CF創出を見込む

営業キャッシュ・フロー

プロジェクトZ **計画**
2024～2027年（4年累計）

進捗：2024～2025年（2年累計実績）
2026年（見込み）



1. 2026年12月期 第1四半期業績の概要

2. 2026年12月期 業績予想

3. 国内外市場動向

4. プロジェクトZ進捗・TOPICS

5. APPENDIX

2026年12月期 連結業績予想 修正なし、前期比増益を見込む

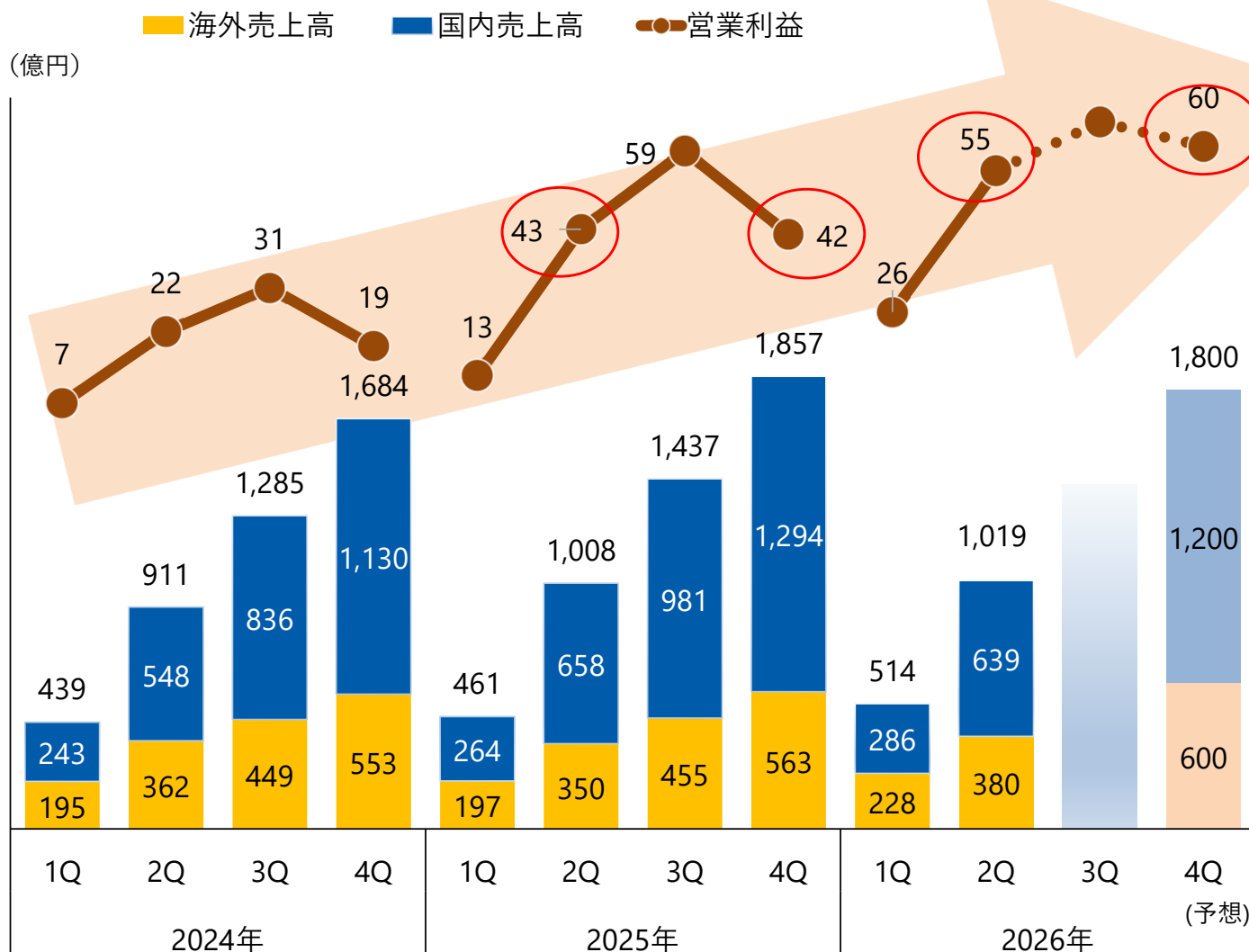
- ・熊本地震に伴うサプライヤー等を含む当社グループへの影響を精査中
- ・為替レートは足元の変動を鑑みて見直しも影響は軽微

(単位：億円、%)		2023/12期 実績	2024/12期 実績	2025/12期 実績	2026/12期 予想	前期比
売上高		1,699	1,684	1,857	1,800	△ 57
	(国内)	1,130	1,130	1,294	1,200	△ 94
	(海外)	568	553	563	600	+ 36
営業利益		22	19	42	60	+ 17
	営業利益率	1.3%	1.1%	2.3%	3.3%	+ 1.0%
経常利益		20	15	41	49	+ 7
親会社株主に帰属する 当期純利益		0	△ 30	27	30	+ 2
為替平均 レート(円)	ドル	139.7	151.7	149.9	153.4	+ 3.5
	ユーロ	156.6	164.8	169.1	180.2	+ 11.1
ROE (%)		0.0%	△ 4.4%	3.9%(2.4%)* ¹	4.0%	+ 0.1%
期末配当 (円/1株)		30	30	40	45	+ 5

* 1 ()内数値は、固定資産売却益10億円を除く

* 2今回予想における通期平均為替レート (下期想定為替レート：対ドル＝150.0円、対ユーロ＝175.0円)

連結業績の推移 2Qも好調に推移し、通期で前期比増益予想



- ・ 1 Qに続き、2 Qも好調に推移
- ・ 前年下期は営業赤字も、今下期はプロジェクトZ効果等で営業黒字を見込む

1. 2025年12月期 第1四半期業績の概要

2. 2026年12月期 業績予想

3. 国内外市場動向

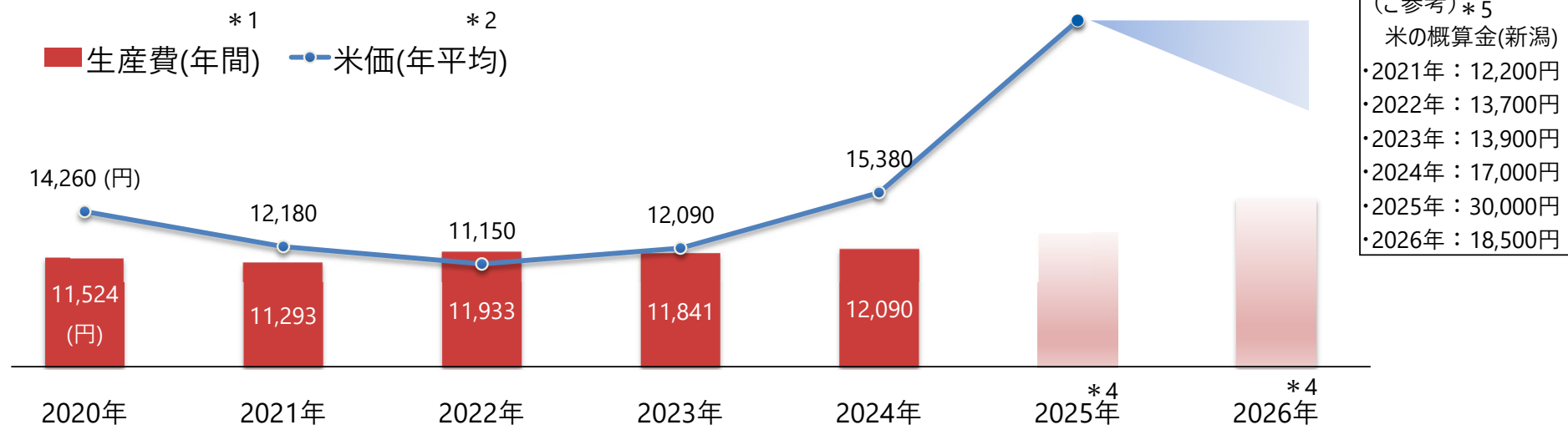
4. プロジェクトZ進捗・TOPICS

5. APPENDIX

国内市場の動向 米価の推移

- 米価はピークアウトしたものの、2024年以前を上回る水準を維持
肥料・農薬等の高騰影響はあるものの、農機需要は概して底堅く推移

■米価・生産費の推移



*1：農業経営統計調査（農林水産省）、米生産費（全国、60kgあたり）、対象農家：組織法人経営体

*2：農業物価統計調査（農林水産省）、全国平均販売価格（農産物の生産者による販売価格（消費税含、うるち玄米1等60kg））

*3：概数値（2026年6月現在）

*4：2025年～2026年の生産費：当社想定

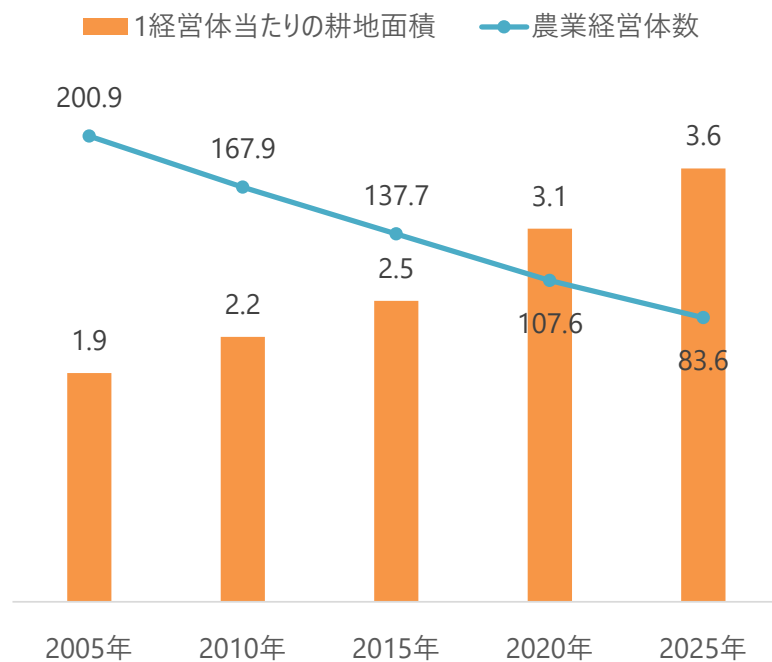
*5：コシヒカリ（新潟、玄米60kgあたり）、報道ベース、当初概算金

国内市場の動向 農業の大規模化

- ・ 農業は家族経営中心から法人などによる大規模化へ転換が進む

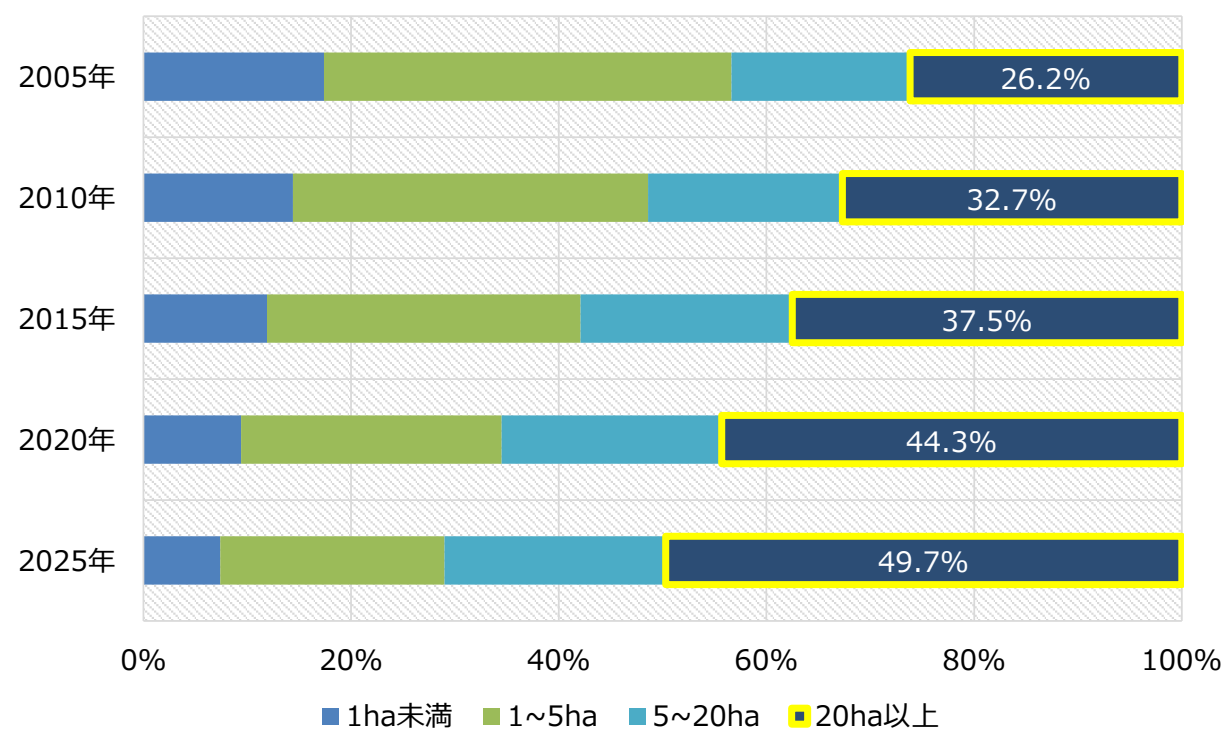
農業経営体数（単位：万）と

1 経営体当たりの経営耕地面積（単位：ha）



出所：農林水産省「農林業センサス」

経営規模別の経営耕地面積割合



市場の動向・当社の状況（2026年：日本・欧州）



日 本

1. 市場の動向

- ・米価は落ち着きが見られるものの、農機需要は底堅く推移
- ・農業は家族経営中心から法人などによる大規模化へ転換が進んでいる

2. 当社の状況（1-6月）、今後の展開等

- ・受注好調
売上以上に契約が伸長し、前期末より受注残は増加
- ・大規模顧客向け販売を強化、大型機販売比率は40%を超える
下期は「JAPANシリーズ」新商品(トラクタ・田植機・コンバイン)投入
2030年目標の大型機比率50%の前倒し達成を見込む
- ・8月に価格改定を実施（対象機種平均約4.6%）

欧 州

1. 市場の動向

- ・地政学的リスク・気候変動の影響がみられるが、欧州プロ市場は引き続き堅調に推移
- ・省力化ニーズの高まりに加え、カーボンニュートラルを背景とした電動化需要は、中長期的に拡大を見込む

2. 当社の状況（1-6月）、今後の展開等

- ・フランスを中心に販売が堅調に推移
- ・ドイツでは当社製品に加え、収益性の高い部品売上も好調
- ・成長戦略の軸として、既存市場のさらなる深化、新市場開拓を推進

市場の動向・当社の状況（2026年：北米・アジア）

北 米

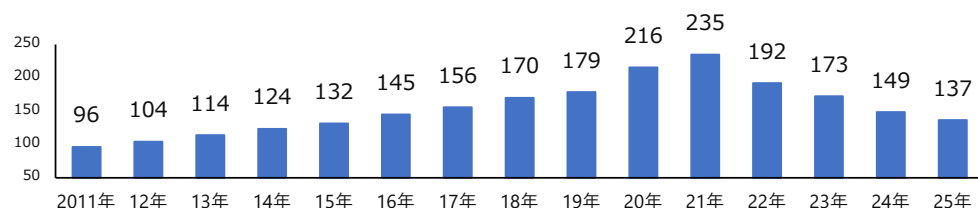
1. 市場の動向（コンパクトトラクタ）

- ・2021年頃をピークに調整局面が続いているが、底打ち感も出てきている

- ・関税や販売金融施策の動向を注視

<市場推移> ・2026年1-6月：前年比 △16%

（単位：千台）
（出所：A E M統計）



2. 当社の状況（1-6月）、今後の展開等

- ・当社販売台数(2026年/1-6月) 前年同期比 △4% ※現地小売台数
- ・地域戦略商品として投入した新型機の販売が拡大
- ・OEM先からの受注は回復傾向

ア ジ ア

1. 市場の動向

- <韓国> ・農業人口減少や高齢化、転作奨励が続く
・大規模化、スマート化が進む
- <タイ> ・農機需要は低調に推移。今年度はトラクタ年間需要3万台を切る見通し
- <インドネシア> ・政府入札予算は継続も、プラボウォ政権における無償給食費などの費用増により今年度は弱含み

2. 当社の状況（1-6月）、今後の展開等

- <韓国> ・販促施策が奏功し、トラクタ販売が大幅に伸長
- <タイ> ・重点地域に販売リソースを集中
- <インドネシア> ・引き続き政府入札への対応強化に加え、入札以外の販路拡大を推進

1. 2026年12月期 第1四半期業績の概要

2. 2026年12月期 業績予想

3. 国内外市場動向

4. プロジェクトZ進捗・TOPICS

5. APPENDIX

プロジェクトZ概要 ～井関の成長ストーリー～

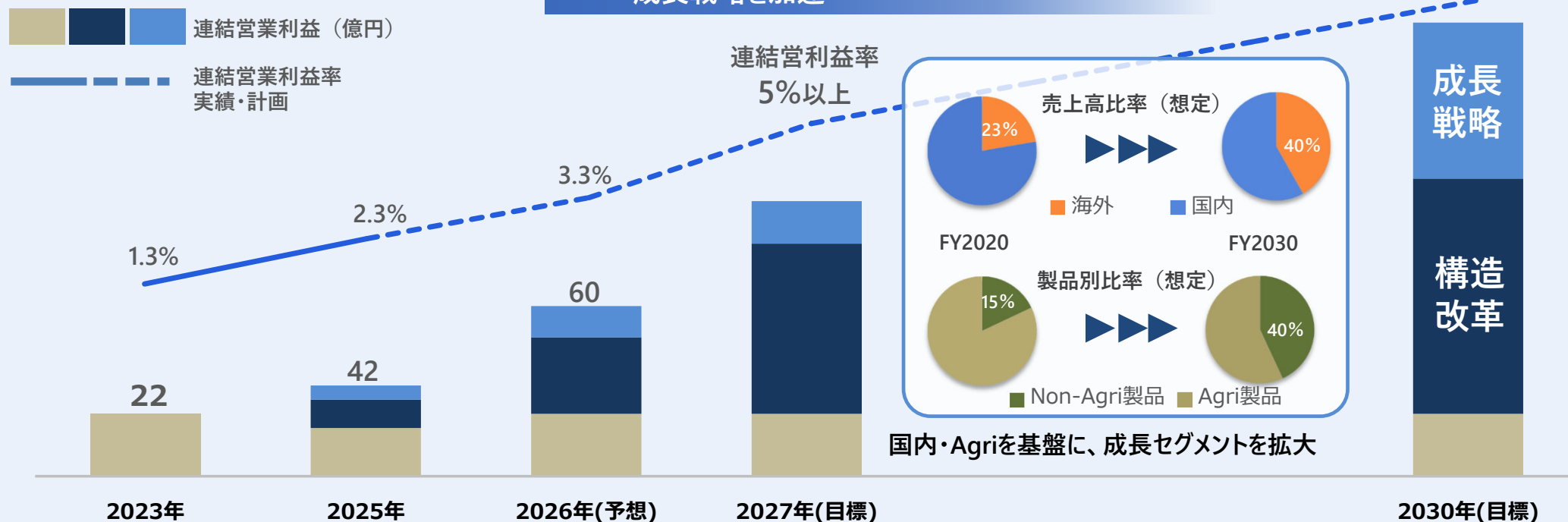
- ・ 2024年から構造改革と成長戦略を実行。2026年から軸足は、より成長戦略に
- ・ 成長セグメントに経営資源を集中。海外は地域別戦略の展開、国内は成長分野への集中

プロジェクトZ

Vision

抜本的構造改革が着実に進展

成長戦略を加速



プロジェクトZ 全体進捗



- 2026年効果は計画通り発現、2027年目標に向け進捗
 - ・「抜本的構造改革」は、概ね計画通り進捗し、施策効果が順次発現
 - ・「成長戦略」は、欧州事業および国内「大型」「先端」分野で成果が着実に拡大

* 2Q営業増益効果
前年同期比

プロジェクトZ	16億円
構造改革	6億円
成長戦略	10億円

	軸となるテーマ		2026年第2四半期までの成果と2027年に向けた進捗
抜本的構造改革	生産最適化	■ 生産拠点再編	・コンバイン・油圧機器生産移管を計画通り実行、順次量産へ移行 ・生産機種集約に向けた設備投資・体制整備を継続
	開発最適化	■ 製品利益率改善 ■ 開発の効率化	・製品利益率改善は一部遅れがあるものの、対象範囲・手法を拡大し、当初計画水準の実現に向け取り組みを継続 ・機種・型式削減は計画通り進捗
	国内営業深化	■ 成長戦略への基盤作り	・ISEKI Japan統合シナジー創出に向け販売・物流改革を推進 ・棚卸資産の圧縮は計画を上回る進捗
	強靱な企業体質への変革	■ 人員構成の最適化と人的資本投資 ■ 経費削減	・人的資本投資を拡充しながら適正人員を維持 ・経費は計画水準を維持
成長戦略	成長セグメントに経営資源を集中	海外 ■ 地域別戦略の展開	・欧州事業は売上拡大が進捗、3社連携によるシナジー創出に着手 ・アセアンでの新規市場開拓
		国内 ■ 成長分野への集中	・「大型」「先端」分野は販売計画を達成、草刈商品の拡販を推進 ・大型トラクタ・コンバイン・田植機 新商品を市場投入

成長戦略

- ・ 海外▶地域別戦略の展開：収益力の高い欧州での事業拡大を加速。
- ・ 国内▶成長分野への集中：組織・体制再編完了、実行フェーズへ移行。

海外

▶欧州成長戦略第二ステージへ

- 海外売上高 2030年 800億円
海外売上高比率 40% 以上 へ

 収益力の高い欧州事業を拡大

増益効果

※2023年比

◆2027年
10億円程度

◆2030年(目標)
30億円程度

国内

▶成長セグメントで拡販

- 成長分野「大型」「先端」「畑作」「環境」への集中により、安定した収益を確保

 大型機種・草刈関連商品の拡販

増益効果

※2023年比

◆2027年
5億円程度

◆2030年(目標)
7～10億円程度

成長戦略：海外欧州事業

- ・ 欧州・北米・アジアを重点3地域として展開
- ・ 中でも欧州を最重要市場と位置づけ

海外売上目標（2030年）

800億円

海外売上高比率40%以上

欧州売上目標（2030年）

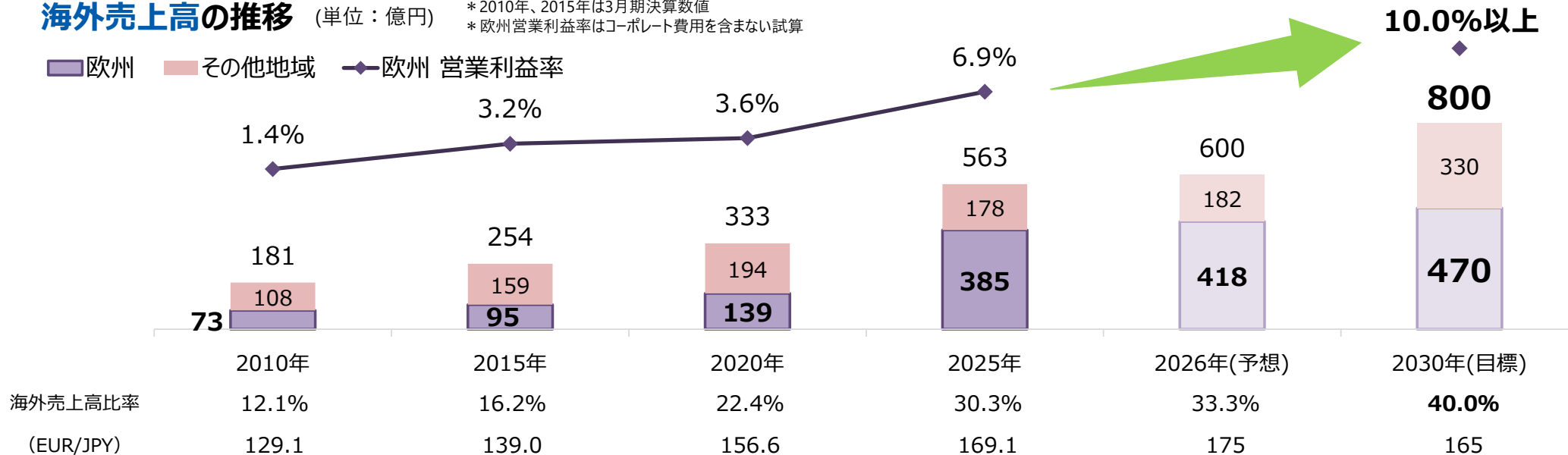
470億円以上

海外事業の成長を牽引

海外売上高の推移（単位：億円）

* 2010年、2015年は3月期決算数値
* 欧州営業利益率はコーポレート費用を含まない試算

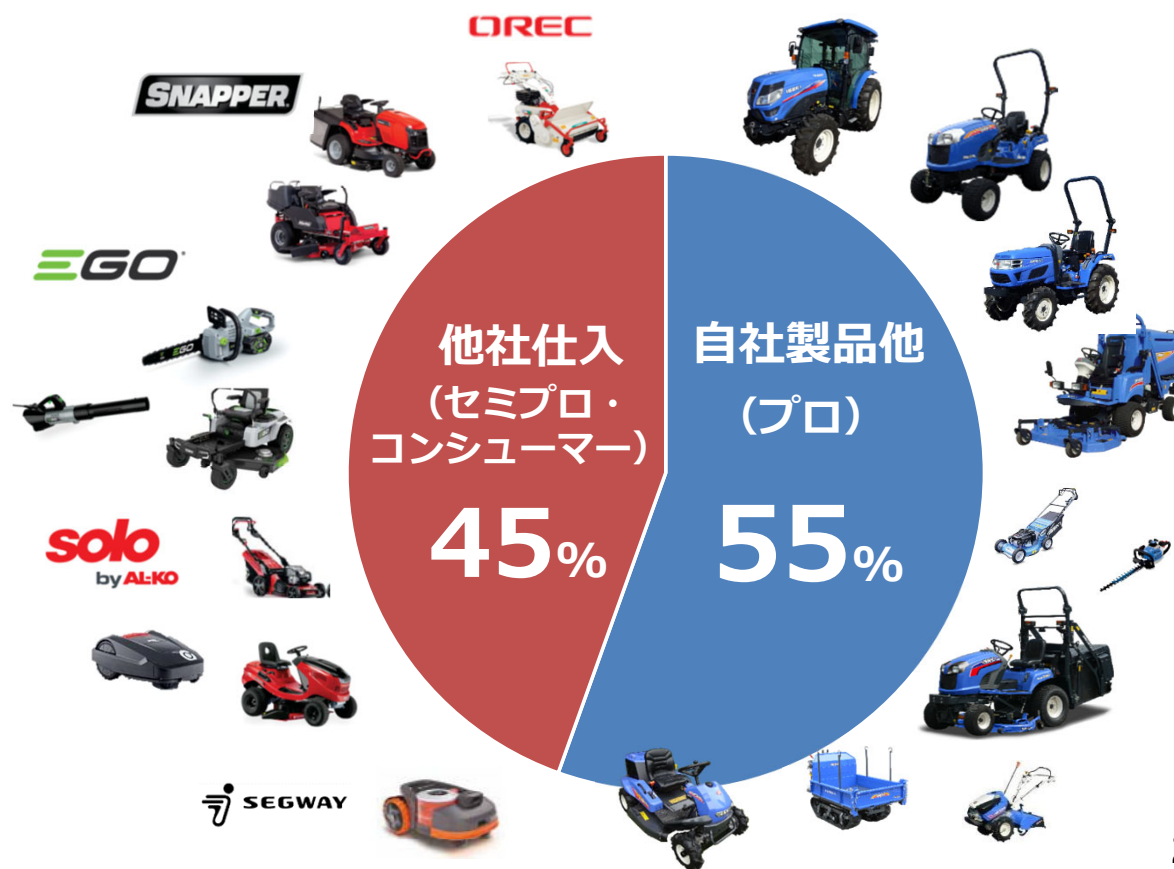
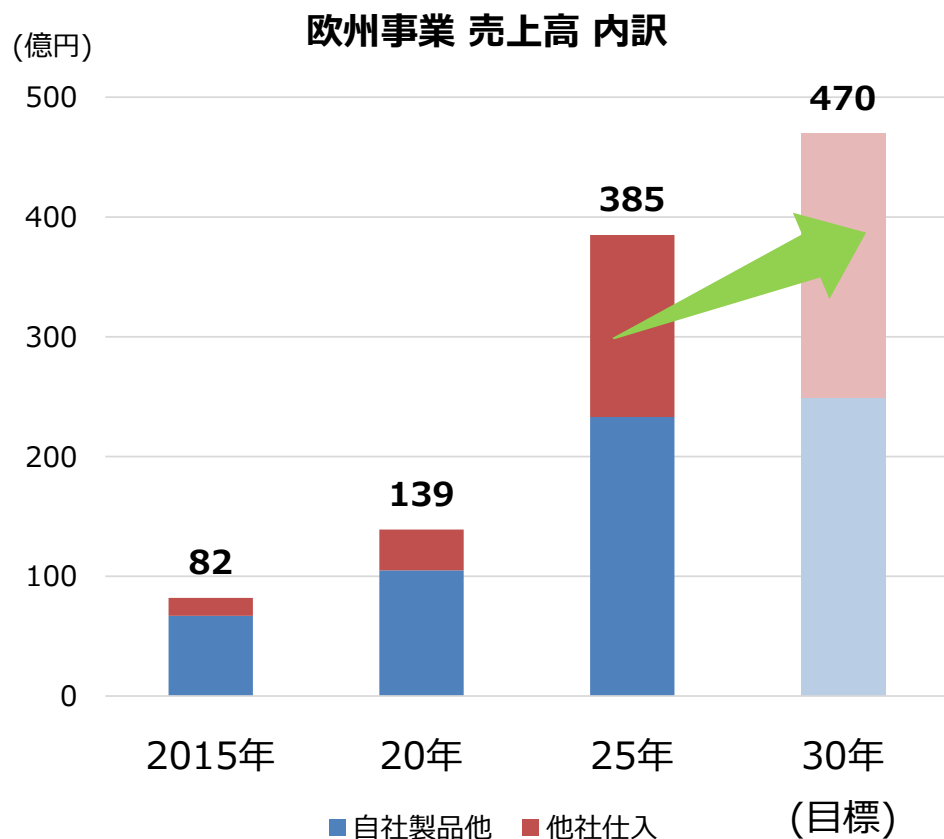
■ 欧州 ■ その他地域 ◆ 欧州 営業利益率



成長戦略：欧州事業 製品ラインナップの強化

- ・ プロダクトポートフォリオの充実：自社製品に加え、仕入製品のラインナップの拡充
- ・ プロユーザーからの信頼をベースにコンシューマービジネスへ展開（顧客層の拡大）

参考）ISEKIフランス社 売上内訳（2025年実績）

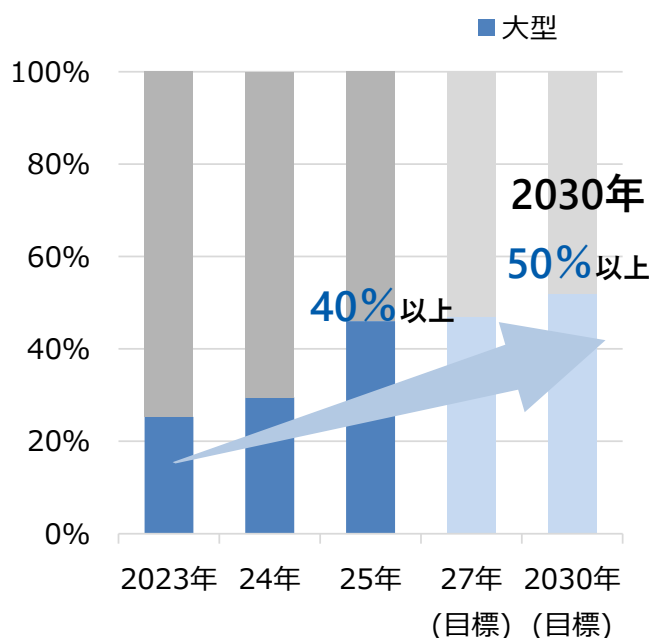


成長戦略：国内事業 大型機の拡販

- ・ 国内売上高に占める大型機販売比率を2030年に50%以上へ
- ・ 販売後のメンテナンス収入を含め、ライフサイクル全体で収益を創出

農機製品売上高に占める 大型機の割合

(国内、トラクタ・田植機・コンバイン)



大型機フラッグシップモデル「JAPANシリーズ」全面モデルチェンジ

1

トラクタBJシリーズ



➤ 65～105馬力

2

田植機PJシリーズ



➤ 8条植

3

コンバインHJシリーズ



➤ 6～7条刈

■モデルチェンジ スケジュール

2026年6月 トラクタBJシリーズ
田植機PJシリーズ

2026年12月
コンバインHJシリーズ



成長戦略：国内 Non - Agri 草刈関連商品の拡販

- 国内Non - Agri市場の販路拡大を目指す
国内草刈関連売上高2030年に100億円へ（2024年比2.5倍）



ウィンザー城(イギリス)での管理作業



松山城・城山公園での草刈作業

⇒ 欧州向け景観整備用機械を日本市場へ本格展開

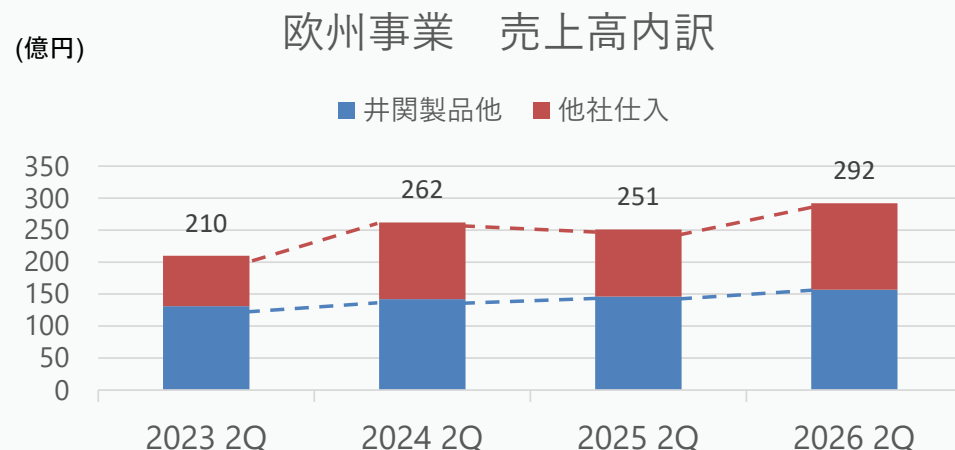
プロジェクトZ 成長戦略の進捗について

- ・ 成長戦略は順調に進捗
- ・ 利益率の高い欧州事業、国内大型機が着実に成長

欧州事業

利益率の高い欧州事業は、過去最高の売上高
堅調な井関製品売上に加え、仕入商品拡充効果が発現

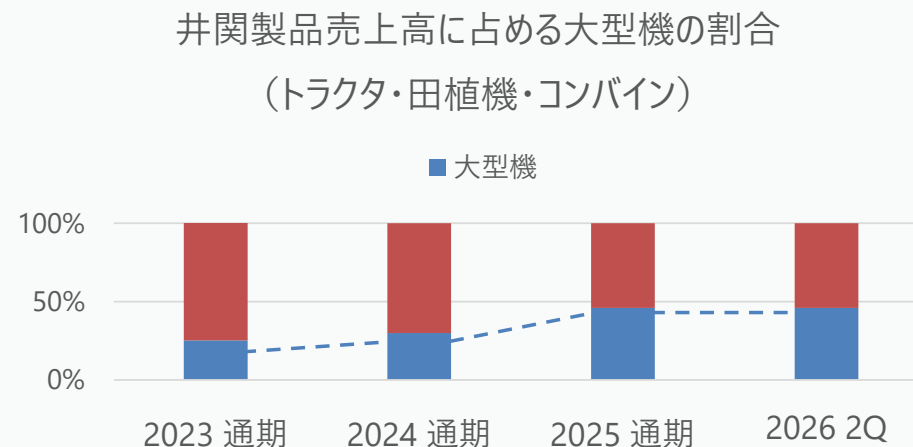
欧州子会社3社の連携強化によるシナジー創出を進め、
更なる増収を目指す



国内大型機

生産拠点再編に伴い一時的に生産能力が低下する中、
大型機販売比率は40%を超える高水準を維持
下期にはトラクタ・田植機・コンバインの大型フラッグシップ機
「JAPANシリーズ」の新商品を市場投入

大型機は販売後の保守・点検需要も大きく、将来的な
メンテナンス収入の拡大を見据え、更なる拡販を目指す



TOPICS：ISEKIレポートの発行について

■統合報告書「ISEKIレポート2026」発行



掲載内容

- ・井関グループの価値創造
- ・企業価値向上のための経営戦略
- ・プロジェクトZの進捗・成長戦略
- ・持続的な成長を支える経営基盤 等

■「プロジェクトZ」の進捗や成長戦略の展開を掲載

■トップインタビュー～新経営体制のスタート～

新会長・新社長インタビューを通じ、長期ビジョン実現に向けた取り組みを紹介

- ・ISEKIレポート掲載ホームページ：<https://www.iseki.co.jp/csr/report/>
- ・ESGデータ：<https://www.iseki.co.jp/sustainability/esg-data/>

TOPICS：IR活動の強化 対話機会の充実



■日経・東証IRフェアへ出展

- ・ 日時：8月28日(金)・29日(土) 10：00～17：00
- ・ 場所：東京ビッグサイト 南3・4ホール
 - ▶ 会社説明会 8月28日(金) 14：45～15：10
B会場（+オンライン配信）
代表取締役会長 富安 司郎
 - ▶ ブース出展 ミニ説明会を開催
＊小間番号52番



日経・東証IRフェア2025 当社ブースの様子

過去の説明会資料等もご覧いただけます

■事業説明会（4月20日開催）

成長戦略（欧州事業・大型機戦略）について詳しくご紹介しています。

- ・事業説明会資料、動画：当社HP

<https://www.iseki.co.jp/ir/management/zplan/>

- ・書き起こし記事：ログミーファイナンス

<https://finance.logmi.jp/companies/2784>

■個人投資家向けセミナー（6月13日開催）

ログミーFinance主催

- ・動画：ログミーファイナンス

<https://finance.logmi.jp/articles/385129>

- ・書き起こし記事：ログミーファイナンス

<https://www.youtube.com/live/tb75-mzNCsU?si=87BQiamRVejUs70r&t=11752>

1. 2026年12月期 第1四半期業績の概要
2. 2026年12月期 業績予想
3. 国内外市場動向
4. プロジェクトZ進捗・TOPICS
- 5. APPENDIX**

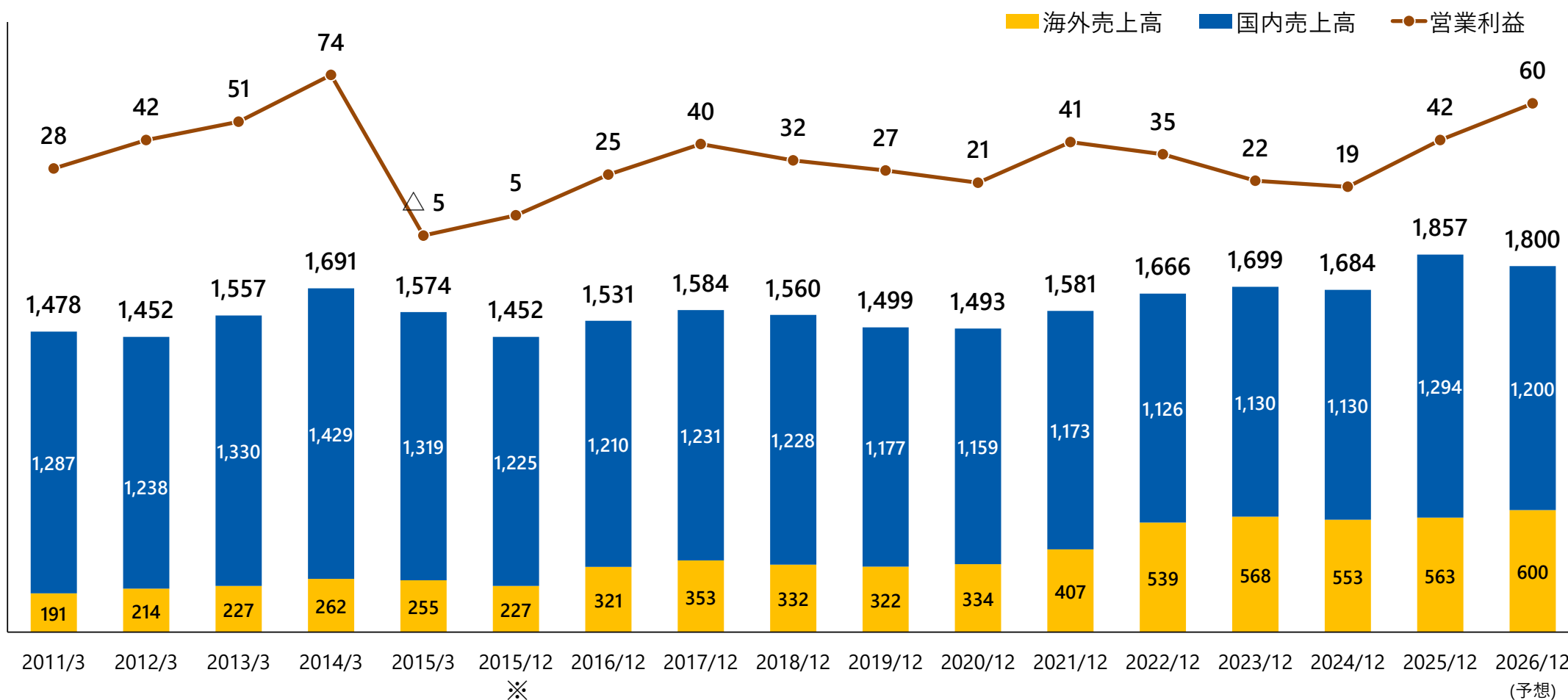
会社概要

・社名	井関農機株式会社（ISEKI & CO.,LTD.）
・創立	1926年8月
・本店の所在地	愛媛県松山市馬木町700番地
・資本金	23,344百万円（2025年12月末）
・売上高	185,770百万円（2025年12月期）
・従業員数（連結）	5,199名（2025年12月末）
・事業内容	農業機械・ガーデントラクタの製造・販売,農業用施設,農業関連商品の販売
・グループ	連結子会社14社（2025年12月末）
・工場	国内5拠点,海外1拠点(インドネシア)
・販売網	国内：ISEKI Japan他系列販売会社、JAグループ、販売代理店等を通じての販売 海外：【欧州】ISEKIフランス社,ISEKIドイツ社,ISEKI UK社,その他現地販売代理店等を通じての販売 【北米】AGCO社へのOEM供給,【中国】東風井関農業機械有限公司による販売, 【タイ】IST社を通じての販売,【その他地域】現地販売代理店等を通じての販売
・上場市場	東京証券取引所プライム市場
・証券コード	6310
・発行済株式の総数	22,984,993株（2025年12月末、自己株式111,478株を含む）
・単元株式数	100株

連結業績の推移（通期）

※2015/12期は決算期変更のため9ヶ月決算

（単位：億円）

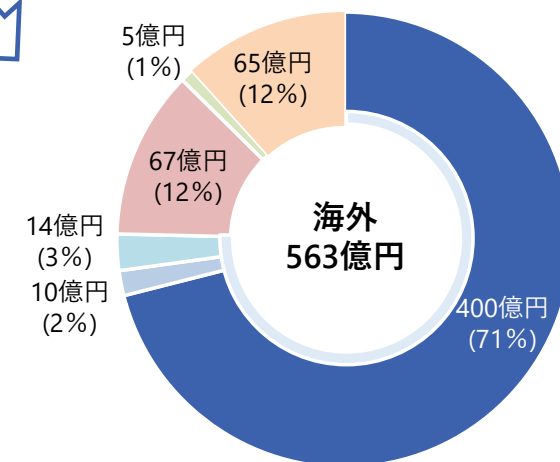
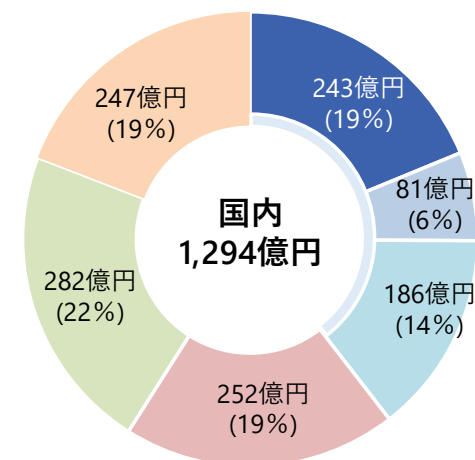
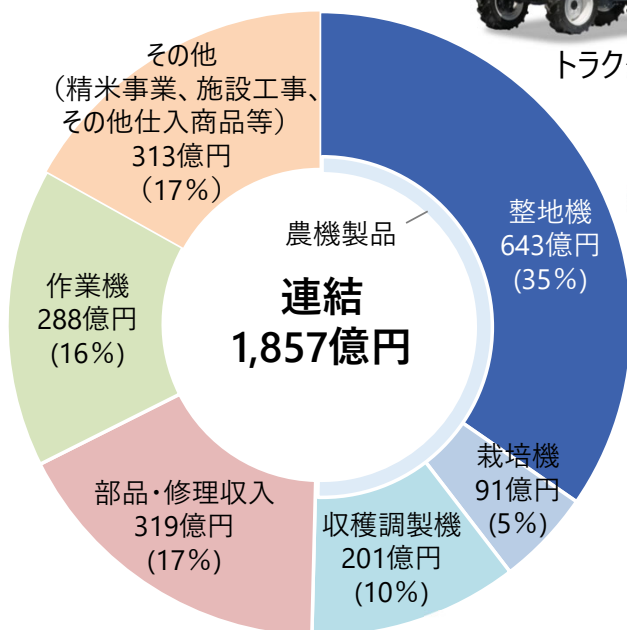


商品・サービス概要

区分	主な商品・サービス	主な販売地域			
		日本	アジア	欧州	北米
製品	主に当社グループにて開発・生産する製品				
整地用	トラクタ、乗用草刈機、 耕うん機・管理機、乗用管理機など    	○	○	○	○
栽培用	田植機、野菜移植機など  	○	○	—	—
収穫調製用	コンバイン、バインダ、野菜収穫機、 粃すり機、計量選別機など   	○	○	—	—
作業機	国内・海外作業機メーカー等の商品 (一部井関グループにて開発・生産)   	○	一部	一部	—
補修用部品・ 修理収入	補修用部品、修理・メンテナンスなど 	○	一部	一部	主に 部品
その他	施設工事（農業用施設等） 農業用資材（肥料等）、コイン精米事業、炊飯事業、 その他仕入商品（小型草刈機等）など  	○	一部	○	—

商品別売上高の内訳

2025年12月期売上高の内訳



海外地域別売上高の内訳

2025年12月期売上高の内訳



韓国 コンバイン

その他
3億円
(1%)



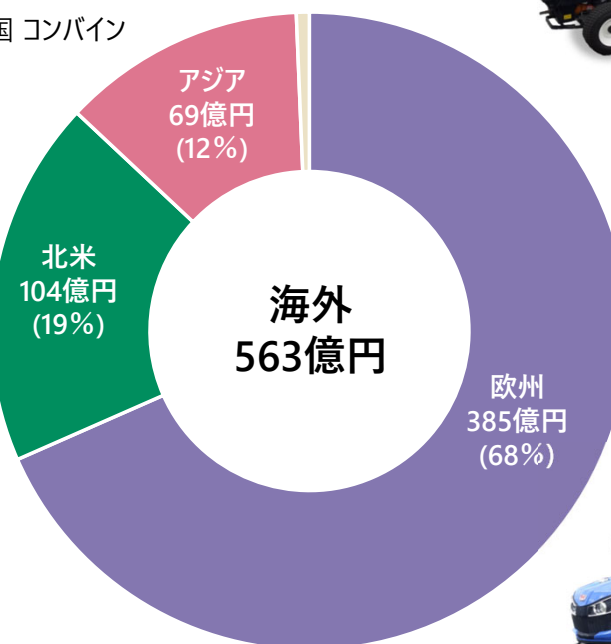
欧州 乗用草刈機



アセアントラクタ



北米 トラクタ
(AGCO社向けOEM供給)



欧州 乗用草刈機



欧州 トラクタ



国内の主な事業所・製造所

※2026年5月現在



(株)井関新潟製造所
資本金 90百万円

開発製造本部（技術部）



井関農機(株)本社

(株)ISEKI M&D
資本金 90百万円

■ ISEKIテクニカル
トレーニングセンター

(株)井関重信製作所

(株)井関南吉田製作所（非連結）



つくばみらい事業所

- 夢ある農業総合研究所
- ISEKIグローバル
トレーニングセンター



夢ある農業
総合研究所

海外の製造所・活動拠点



(2026年5月現在)



海外：主な関係会社・戦略パートナー

[関係会社]

フランス	ISEKI France S.A.S (ISEKIフランス社)
ドイツ	ISEKI Europe GmbH (ISEKIヨーロッパ社) (※1)
	ISEKI-Maschinen GmbH (ISEKIドイツ社)
イギリス	ISEKI UK & Ireland Limited (ISEKI UK社)
タイ	IST Farm Machinery Co.,Ltd. (ISTファームマシナリー社)
インドネシア	PT.ISEKI INDONESIA (PT井関インドネシア) ◆
中国	東風井関農業機械有限公司 (東風井関) ◆ (※1)

[戦略パートナー]

アメリカ	AGCOグループ (※2) AGCO Corporation (AGCO社)
インド	Tractors and Farm Equipment Ltd. (TAFE社：業務提携)

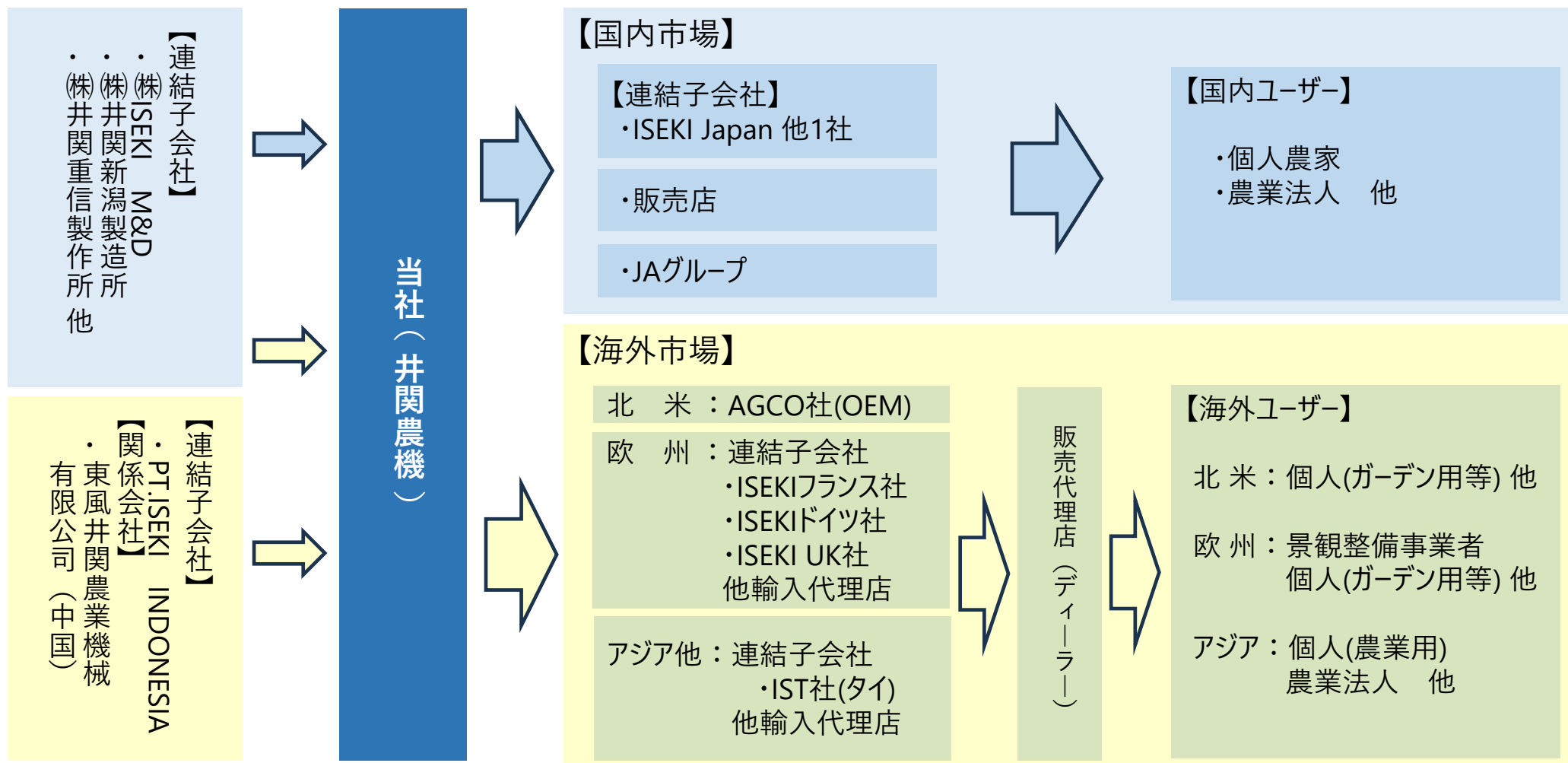
◆生産拠点

※1：非連結 ※2：OEM供給先

当社製品の主な販売経路

国内向け製品 ➡ 海外向け製品 ➡

(2026年5月現在)



グローバル展開：欧州

(2026年5月現在)

「住みよい清潔な街づくり」に貢献

- ✓ 1960年代にビジネスをスタート。以降、欧州全域に販売エリアを拡大し、ISEKIブランドを確立、欧州の街づくりに貢献しています
- ✓ 主に自治体から請け負う景観整備業者を中心に、エッセンシャルビジネスである公園の草刈りや道路清掃、除雪作業に使われる小型で高性能なトラクタ、乗用草刈機を提供しています
- ✓ 2025年からはイギリスのISEKI UK社(IUK社)を連結子会社化。欧州子会社内での連携を強化し、購買・調達などの一元化やコンポーネントの共通化でシナジーを発揮し、欧州事業の更なる拡大を目指します

■取り扱い商品

区分	主な内容	主なユーザー
製品(Non-Agri) (主に整地用)	(主に景観整備用) コンパクトトラクタ、 乗用草刈機、耕うん機など	景観整備業者、 小規模農家、 ホビーファーマー
その他商品	作業機*・部品など	

*当社製品とシナジー効果の高い、電動・ガソリンタイプの草刈商品等を仕入・販売

■主な販売ルート

フランス：ISEKIフランス社（連結子会社）
ドイツ：ISEKIドイツ社（連結子会社）
イギリス：ISEKI UK社（連結子会社）
ベルギー・オランダ：バンデハーゲ社
その他各国代理店を通じての販売等



グローバル展開：北米

(2026年5月現在)

「プライベートな生活充実」へ貢献

- ✓ 農業機械のグローバルメジャーメーカーであるAGCO社をビジネスパートナーに、同社のMassey Fergusonブランドの製品をOEM供給しています
- ✓ プライベートユーザーを中心に軽土木作業や庭の整備、寒冷地での除雪作業等のさまざまな用途で使用されており、現地ユーザーからも高く評価されています
- ✓ コンパクトトラクタの需要はここ10年で急速に拡大しており、特にコロナ禍においては郊外移住等のライフスタイルの変化に伴う需要が旺盛となりました。2022年以降は調整局面に入るも、依然として大きな市場規模となっています

■取り扱い商品

区分	主な内容	主なユーザー
製品 (Non-Agri) (主に整地用)	コンパクト・サブコンパクトトラクタなど	農家 ホビーファーマー 景観整備、軽土木業者
その他商品	作業機・部品など	

■主な販売ルート

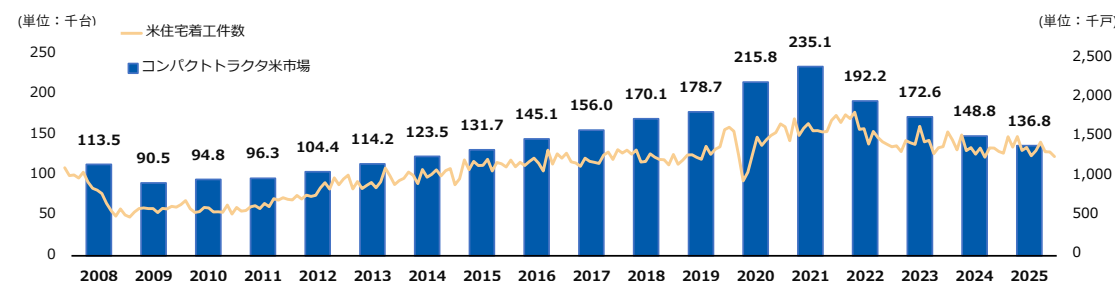
アメリカ・カナダ：AGCO Corporation（AGCO社：OEM供給）



～商品供給の歴史～

- ・1977年～ トラクタ輸出開始
(FMC社：OEM)
- ・1991年～ MF(Massey Ferguson)社へOEM供給
- ・1994年～ AGCO社へOEM供給開始

■北米コンパクトトラクタ市場と住宅着工件数の推移



出典：Association of Equipment Manufacturers (AEM), United States Census Bureau(USCB)

グローバル展開：アジア

「農業生産者の負担軽減、食料生産」に貢献

アセアン、東アジア（韓国・台湾）、中国の各市場において、日本で培った稲作関連機械を中心に展開しています

- ✓ アセアンでは、連結子会社であるIST社を核として、周辺国への販売・サービス展開をしています。主に農業用に利用され、トラクタに加え、稲作関連の田植機、コンバイン等も提供しています
- ✓ 東アジアでは、先端技術や大型農機のニーズが高まっており、日本で活躍する大型で高性能な稲作農機（トラクタ、田植機、コンバイン等）を現地販売代理店を通じて、ISEKIブランドで提供しています
- ✓ 中国では、稲作関連機械をISEKIブランドに加え、現地ブランドでも展開し、よりニーズに合わせた商品構成としています



■取り扱い商品・主な販売ルート

国・地域	区分		主な内容	主なユーザー	販売ルート
アセアン	製品(Agri) (主に農業用)	整地用 栽培用 収穫調製用	トラクタ 田植機（歩行・乗用） 汎用コンバイン 等	農家 コントラクター	タイ：IST社(連結子会社) * IST Farm Machinery Co.,Ltd.
	その他商品		作業機・部品など		
東アジア (韓国・台湾)	製品(Agri) (主に農業用)	整地用 栽培用 収穫調製用	トラクタ、乗用管理機 田植機、野菜移植機 自脱型コンバイン 等	農家 コントラクター	現地販売代理店
中国	製品(Agri) (主に農業用)	整地用 栽培用 収穫調製用	トラクタ 田植機(歩行・乗用) コンバイン(自脱型・汎用型) 等	農家 コントラクター	東風井関(非連結) * 東風井関農業機械有限公司

知的財産について

当社の特許の分野別登録数や高い特許査定率は、新技術の開発・投入・実用化に積極的に取り組んできた証です

1.特許の日本における分野別登録数

「その他特殊機械分野」 第2位

年	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
分野	その他の特殊機械								
順位	1位	2位	1位	2位					

2.特許査定率

「全産業中」 第3位

年	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
特許査定率	98.1%	96.4%	97.7%	98.7%	97.2%	94.6%	92.2%	96.7%	96.1%
順位	1位	2位	1位			3位	-	3位	

※特許査定率＝特許査定件数/(特許査定件数＋拒絶査定件数＋取下・放棄件数)、取下・放棄件数＝拒絶理由通知後に取下げまたは放棄した件数

将来の見通しに関する記述についての注意

- ・本資料は、情報提供を目的として作成しており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません
- ・本資料は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が作成したものでありますが、潜在的风险や不確実性が含まれており、経済情勢や市場動向の変化等により実際の結果と必ずしも一致するものではありません
- ・ご利用に際しては、ご自身の判断でお願い致します

本資料に掲載している業績予想や目標数値に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません

